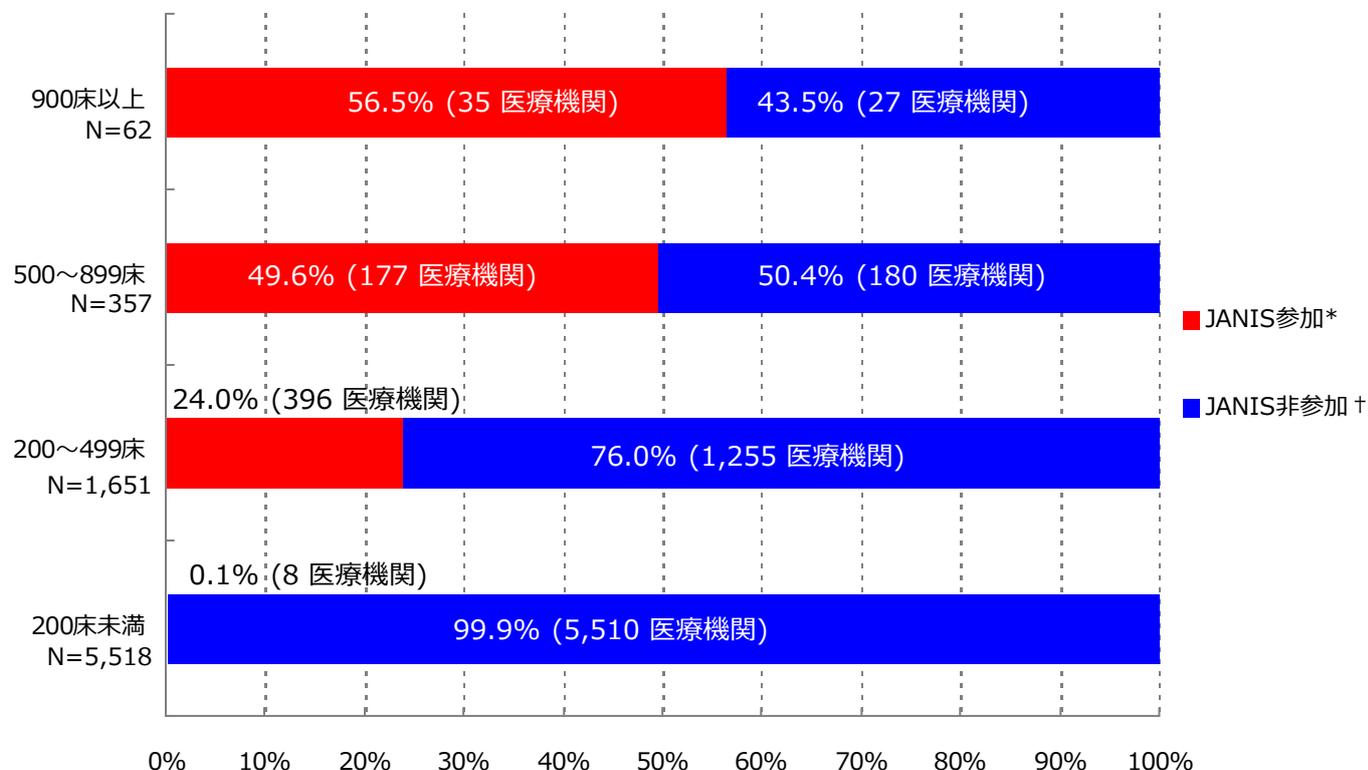


1. 集計対象医療機関数(616医療機関)



*JANIS参加 = 2012年10～12月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2010年 全国医療機関数 †) - (2012年10～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2010年 全国医療機関数 †	2012年10月～12月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	62	35 (56.5%)
500～899床	357	177 (49.6%)
200～499床	1,651	396 (24.0%)
200床未満	5,518	8 (0.1%)
病床数不明	-	0 (-)
合計	7,588	616 (8.1%)

† 平成22年医療施設（動態）調査を参照した
精神科病院はのぞく

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	614	298,562	190,842 (397,312)
尿検体	611	115,955	60,992 (93,673)
便検体	607	82,661	40,586 (79,945)
血液検体	600	269,788	36,436 (40,878)
髄液検体	517	12,200	780 (893)
その他	614	195,189	91,667 (159,746)
合計	614	974,355	421,303 (772,447)

入院として報告された検体を集計

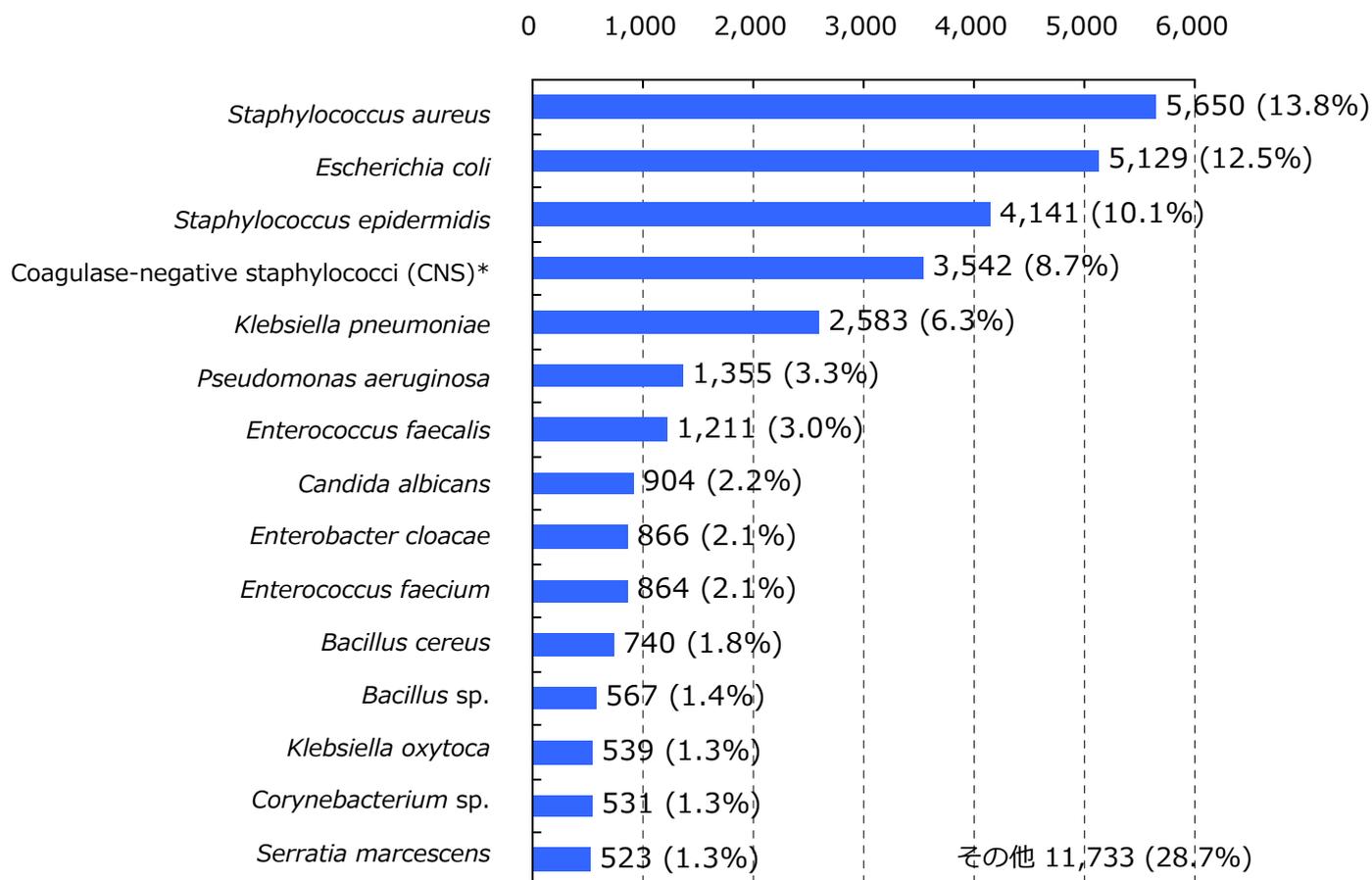
集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は検査材料コード参照

： http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=40,878)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が16位以下は「その他」に集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コードについて

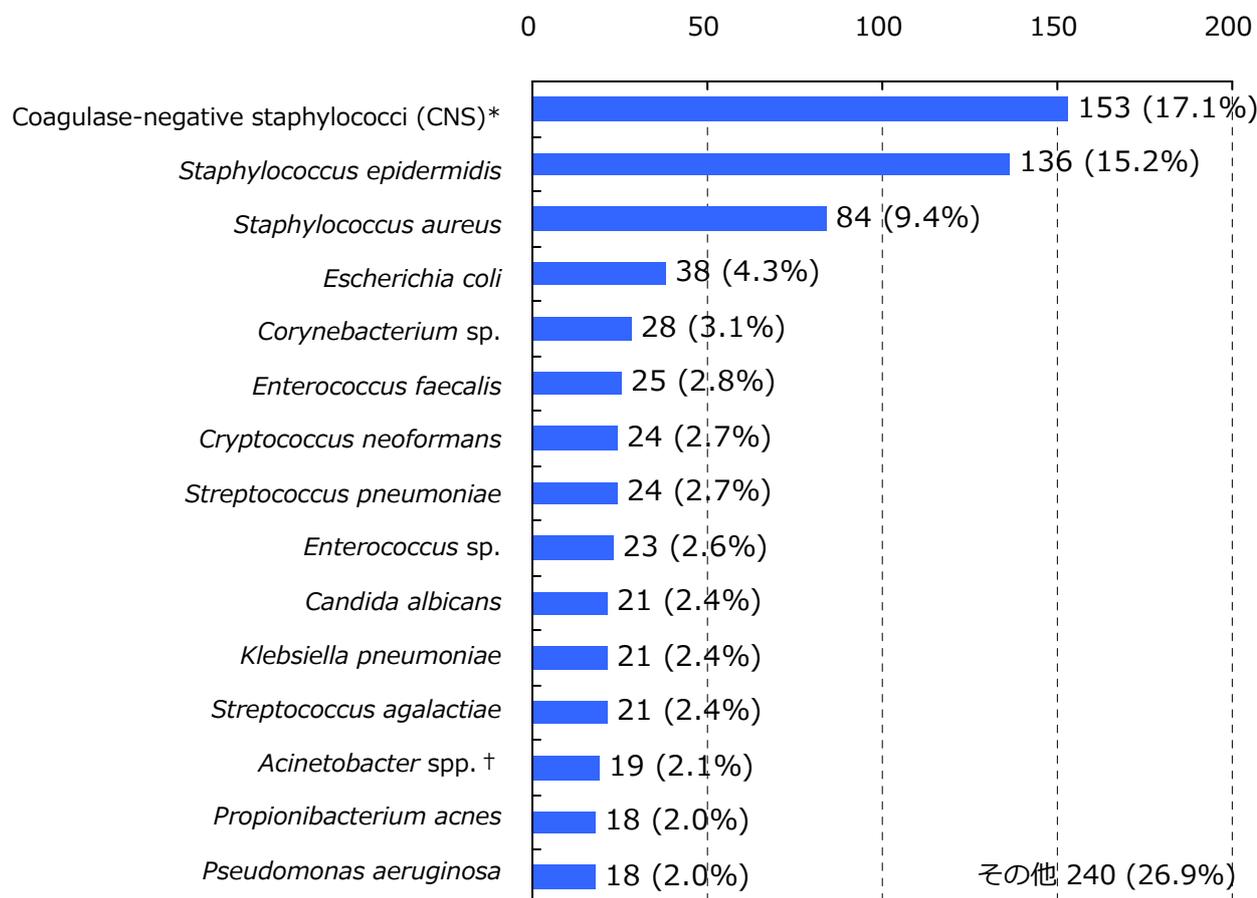
： http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.1_20121029.xls

検査材料コードについて

： http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=893)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が16位以下は「その他」に集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コードについて

： http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.1_20121029.xls

検査材料コードについて

： http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls

4. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡	集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布
検体提出患者数	347,548人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	26,551人 (7.64%)	0.00 7.59 48.84 H□H
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	40人 (0.01%)	0.00 0.00 2.75
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	3,349人 (0.96%)	0.00 0.57 20.00 H—
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	412人 (0.12%)	0.00 0.00 3.43 □—
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	31人 (0.01%)	0.00 0.00 2.46
カルバペネム耐性緑膿菌	3,573人 (1.03%)	0.00 0.79 16.28 H□H
カルバペネム耐性セラチア	17人 (0.00%)	0.00 0.00 1.30
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	820人 (0.24%)	0.00 0.00 6.90 □—
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	4,356人 (1.25%)	0.00 1.03 17.62 H□H
フルオロキノロン耐性大腸菌	9,647人 (2.78%)	0.00 2.67 24.35 H□H

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

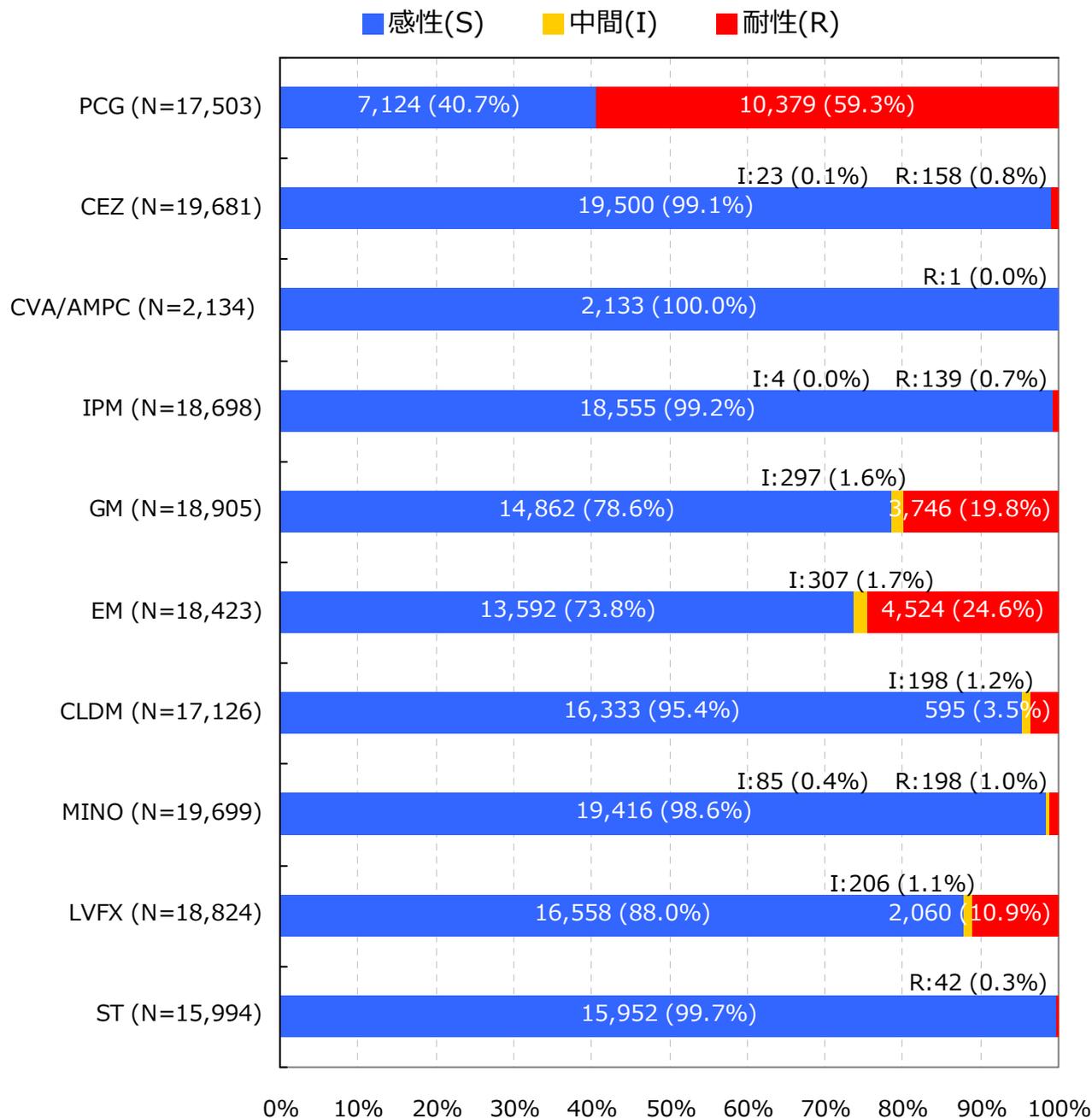
‡全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

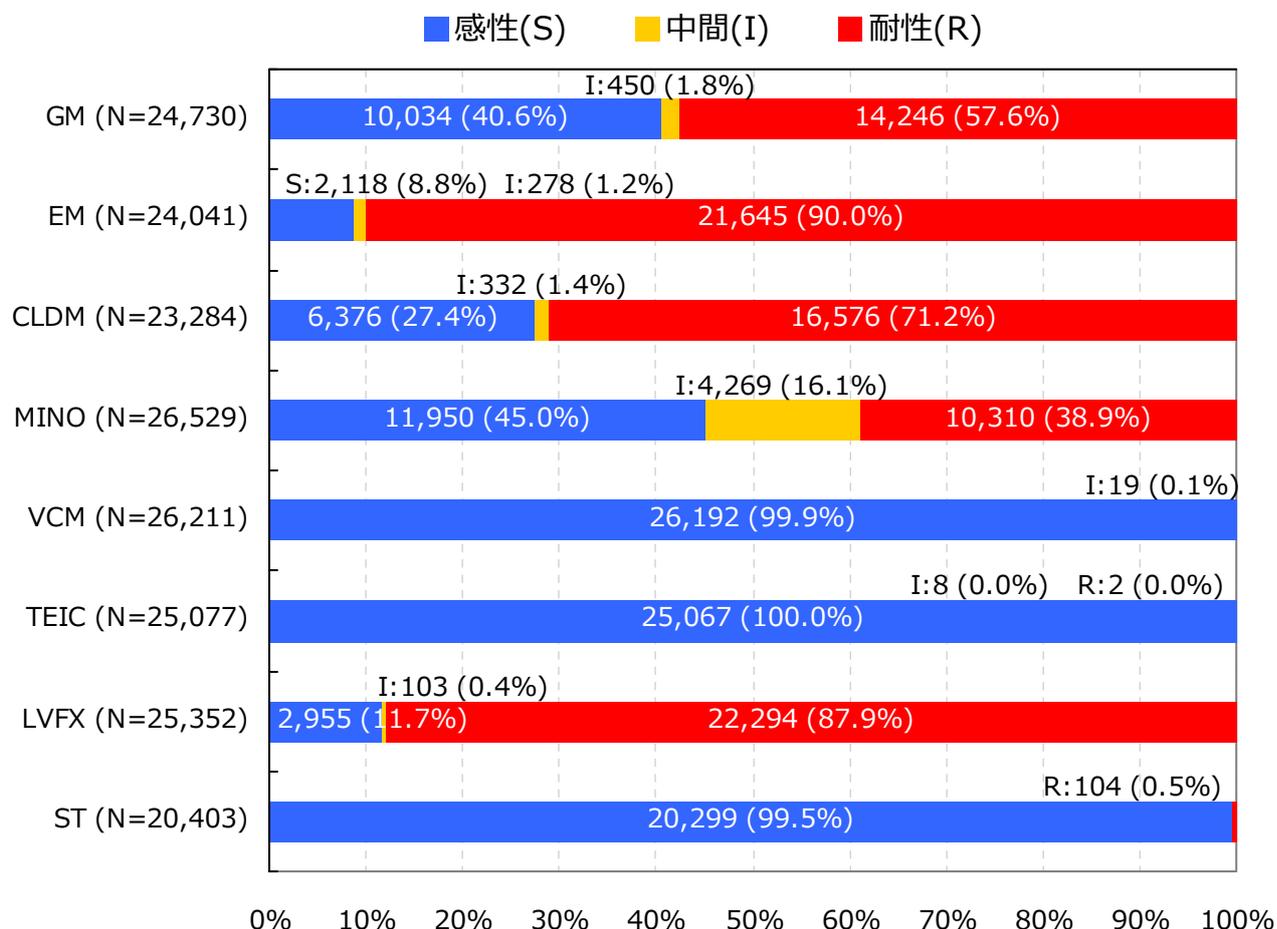
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

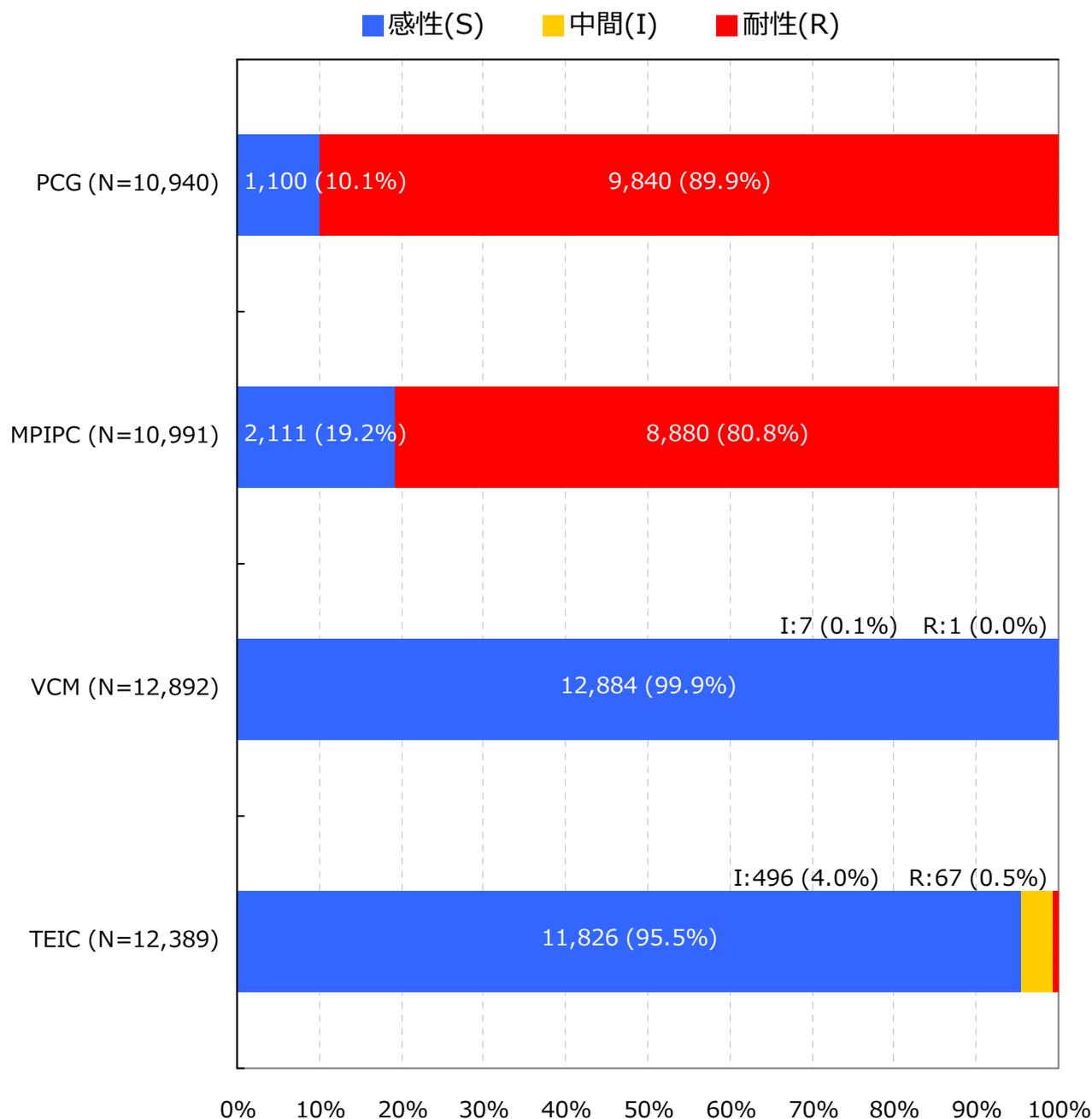
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1303と報告された菌および菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

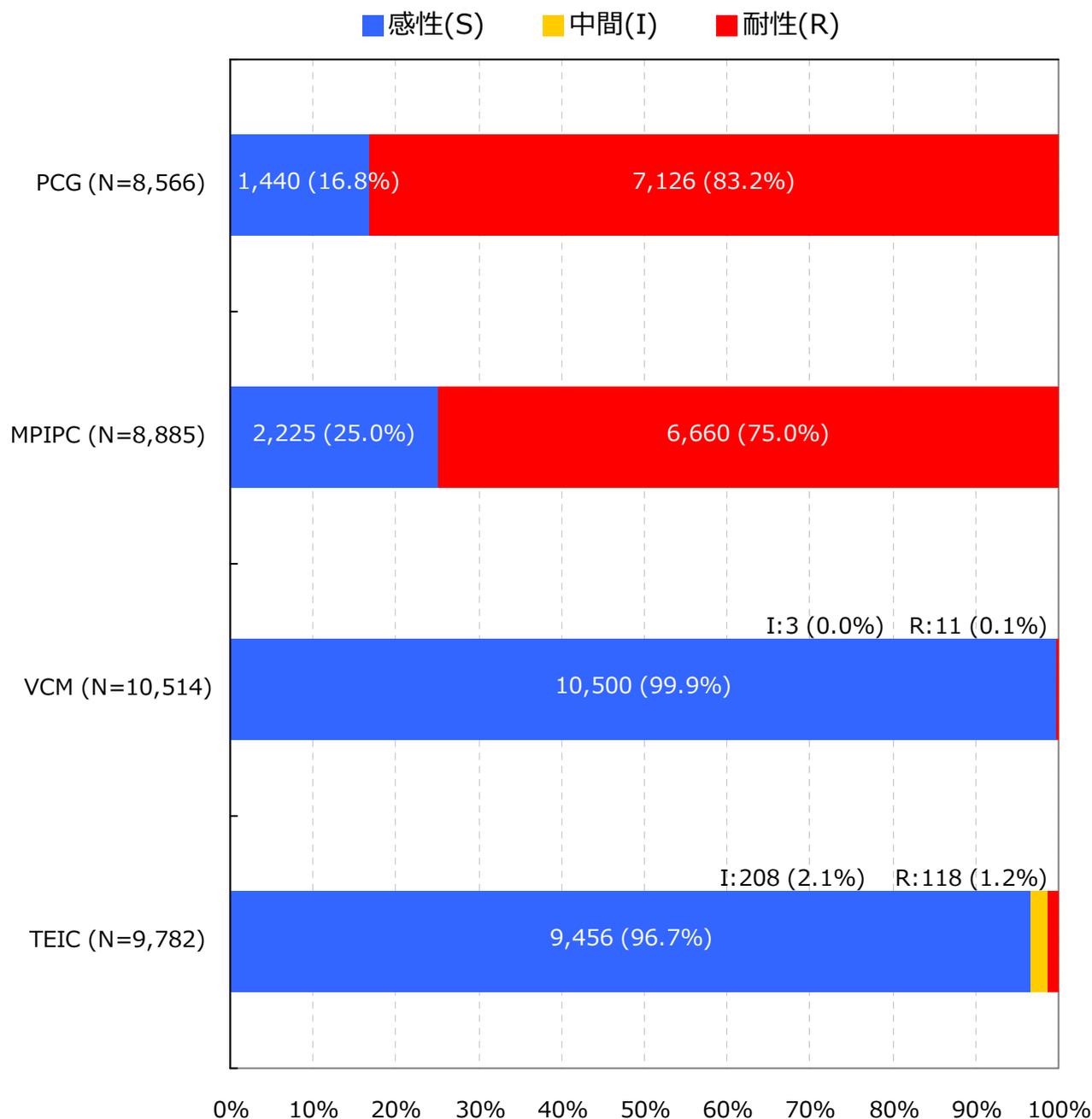
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1312と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

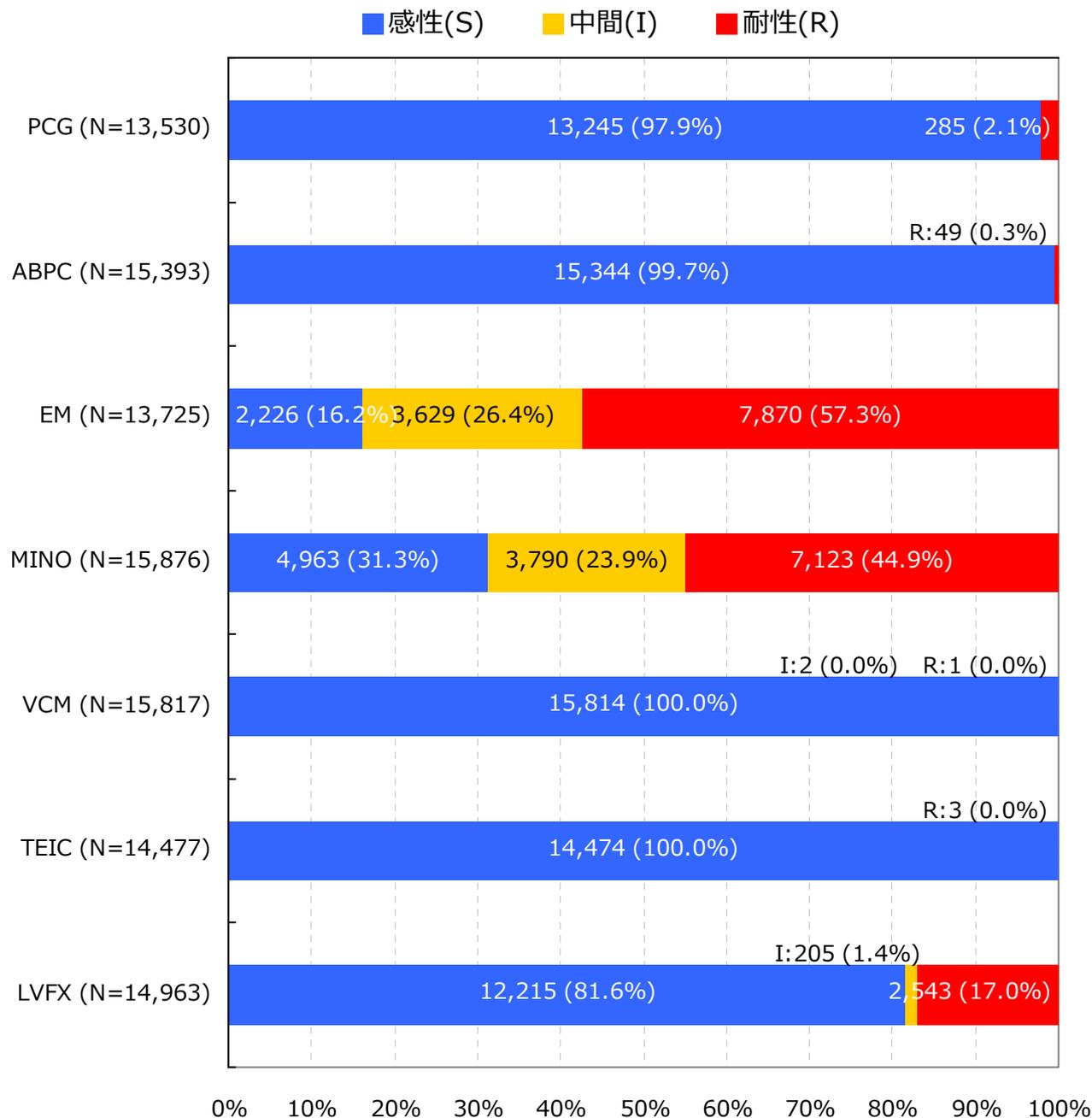
*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

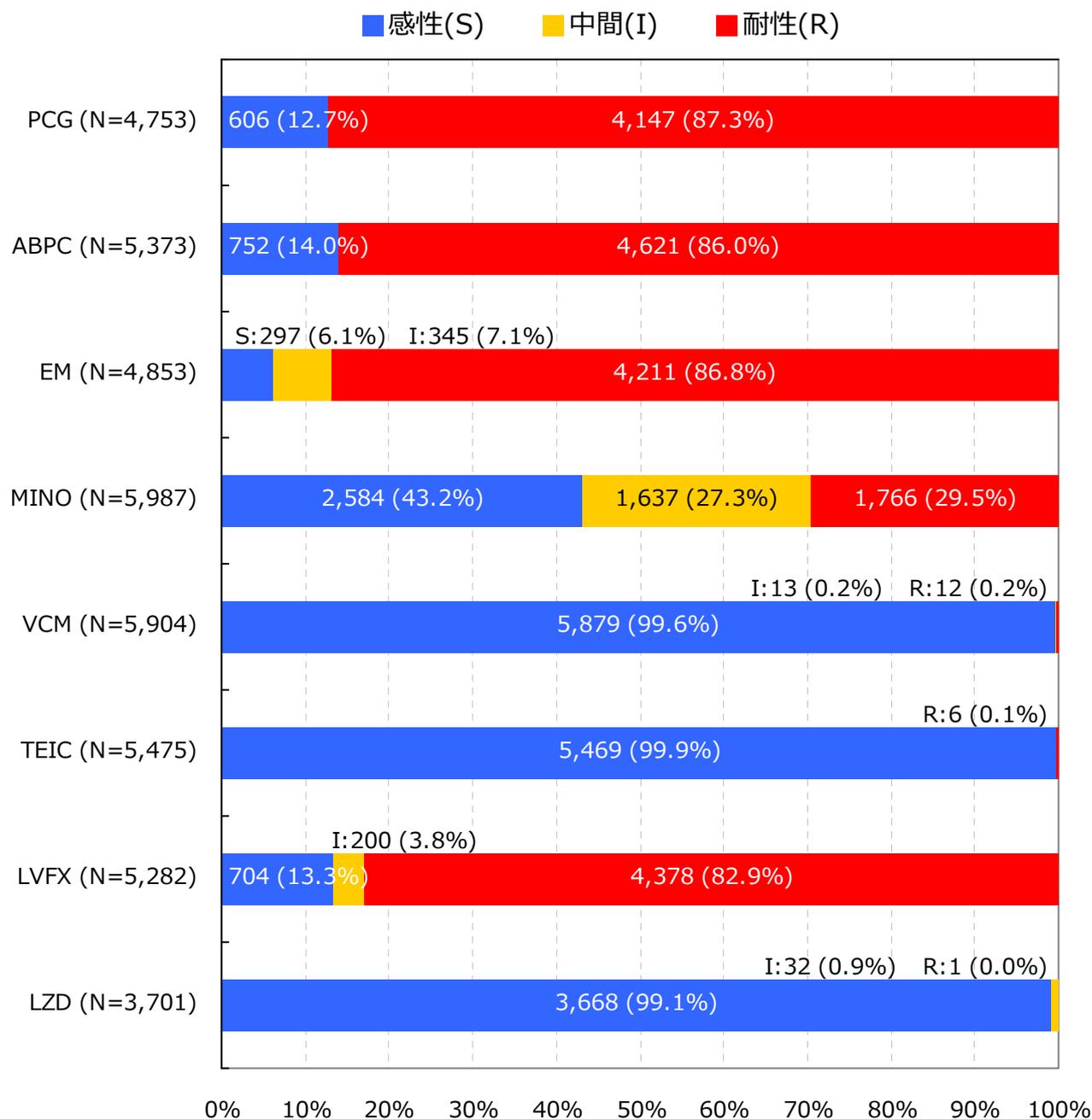
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1201, 1202と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

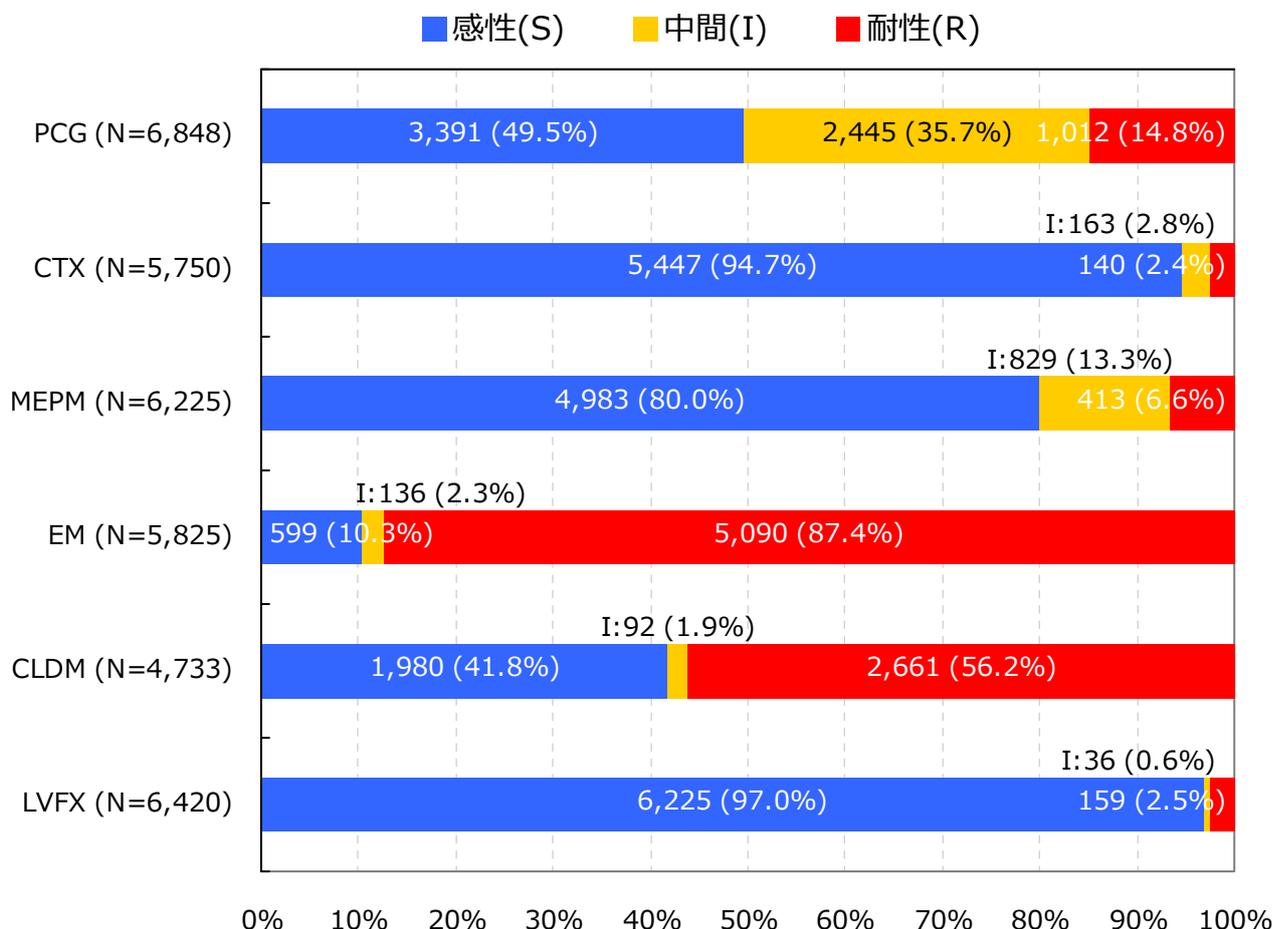
*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌



5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

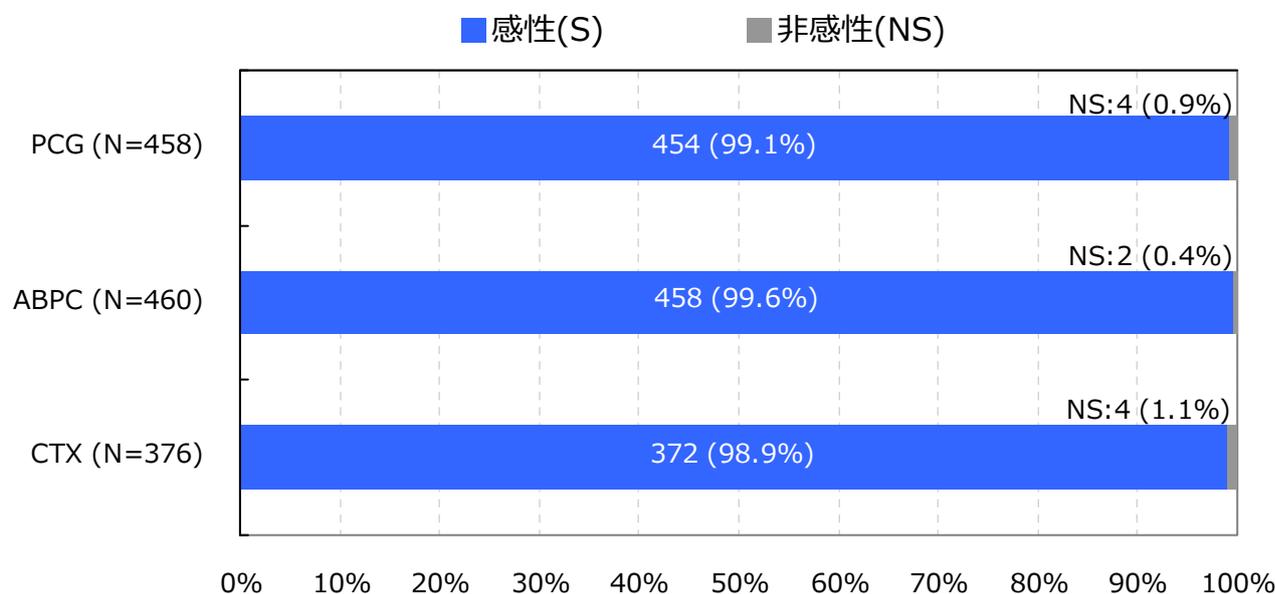
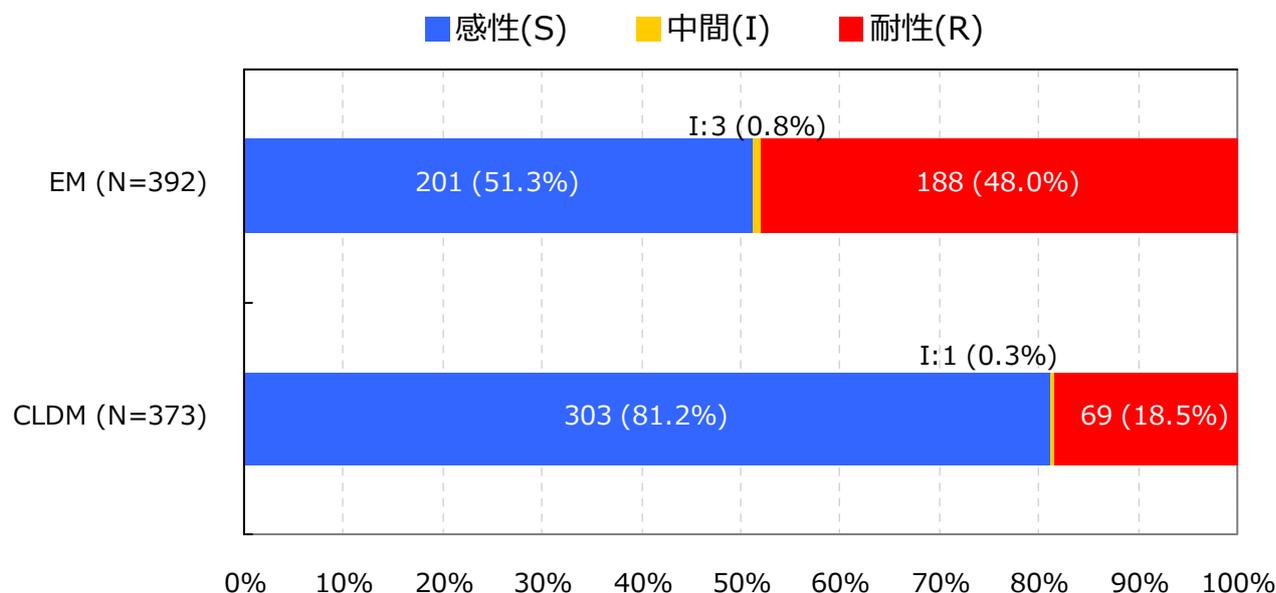
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1131と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

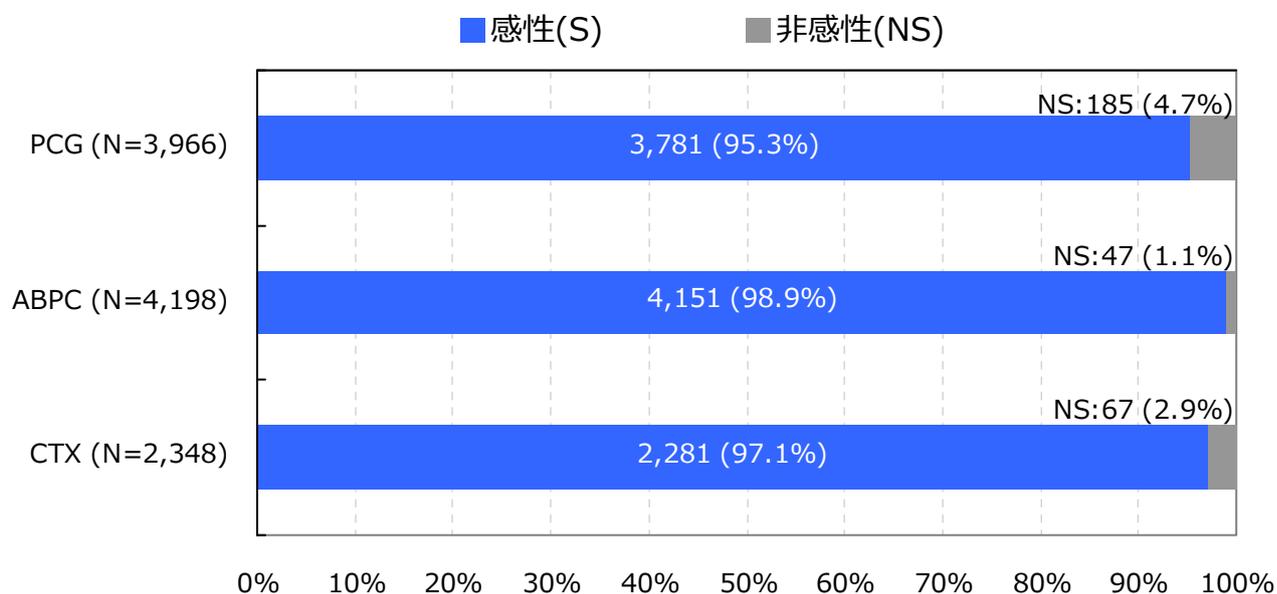
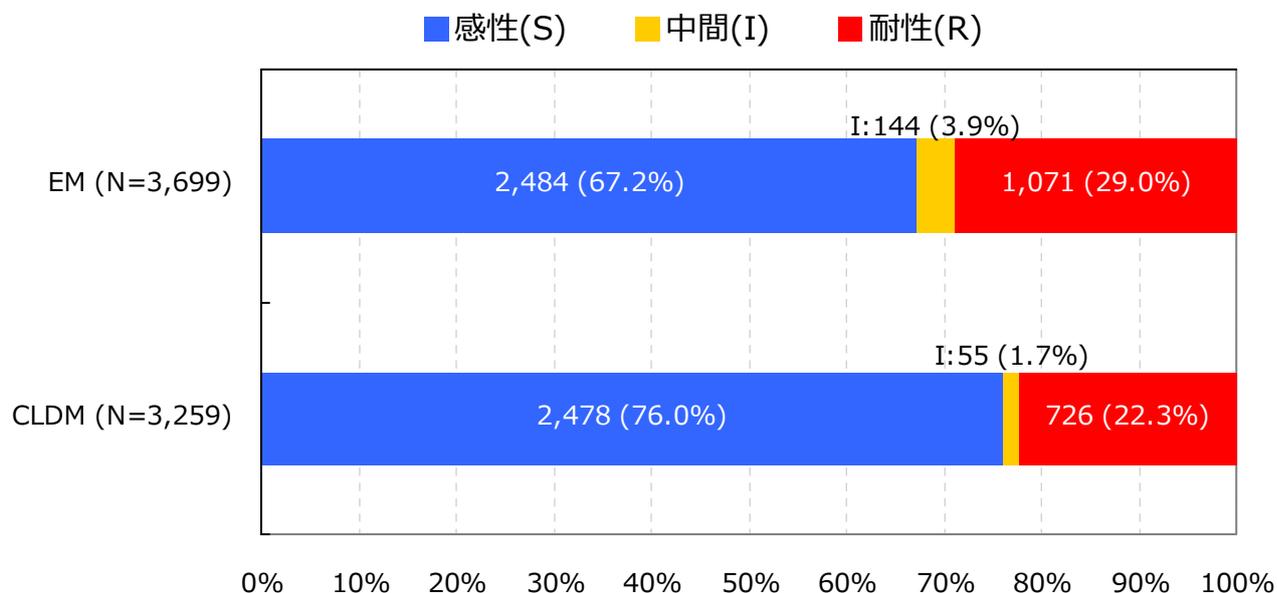
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1111と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

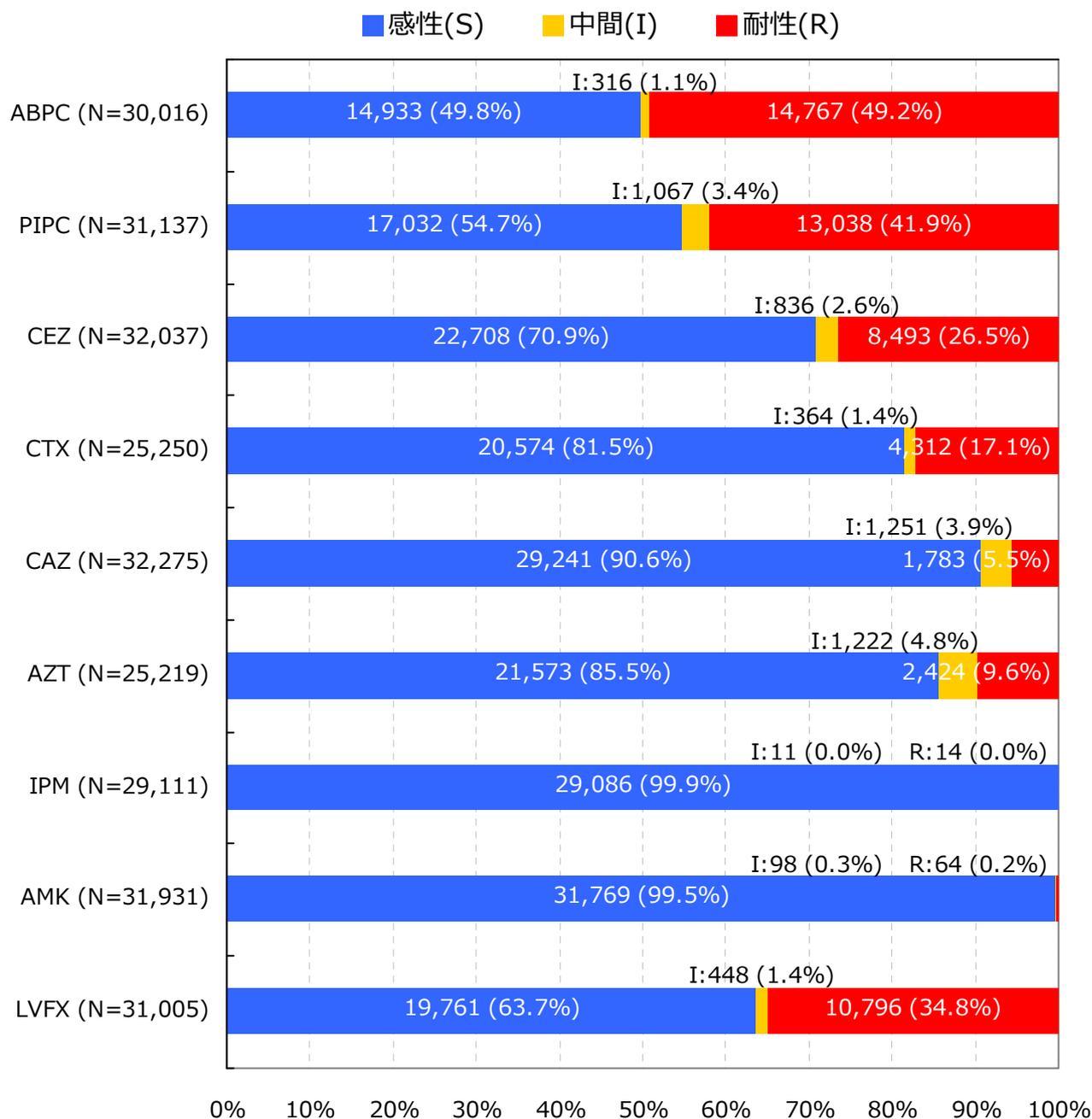
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1114と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

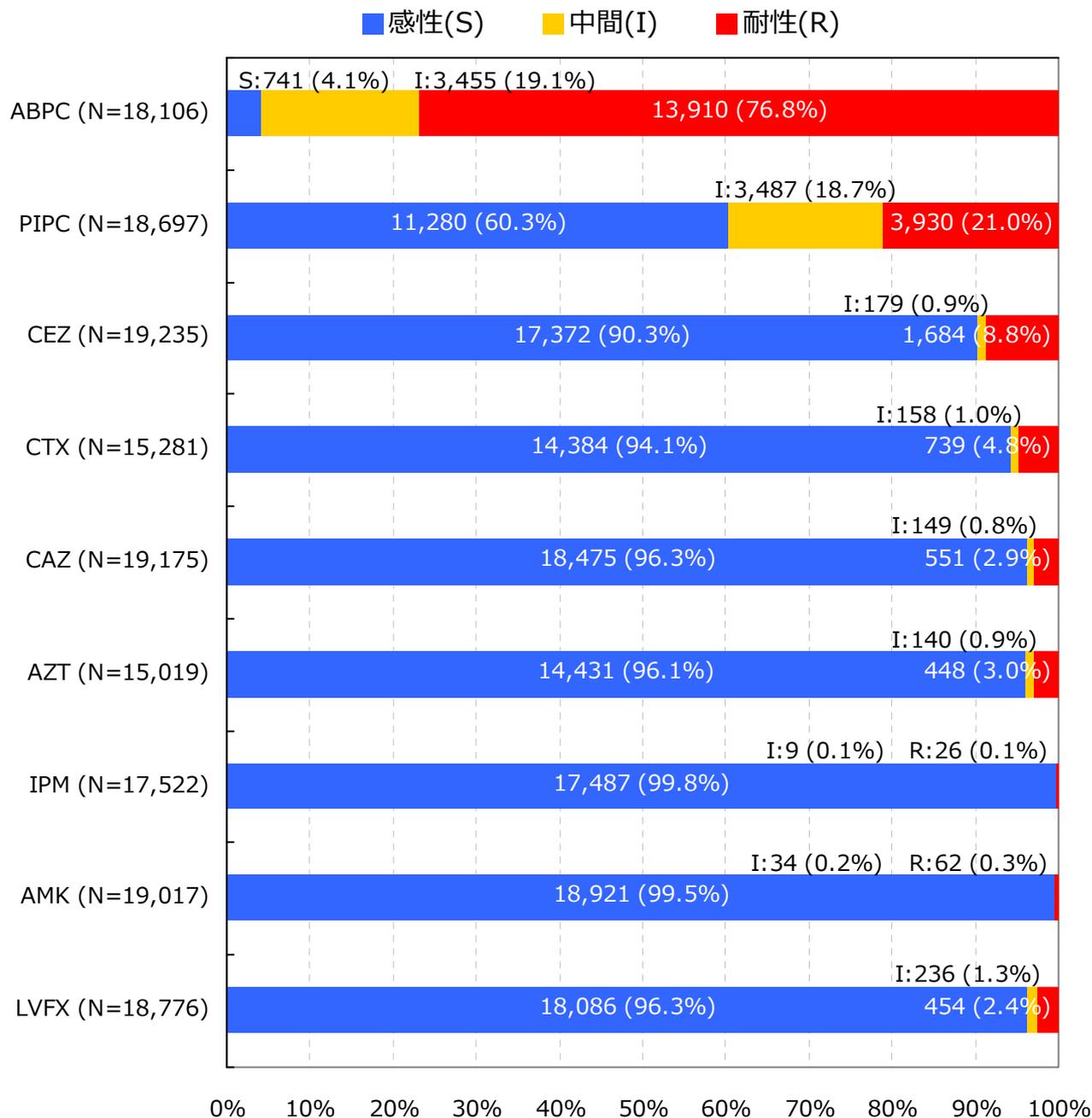
*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

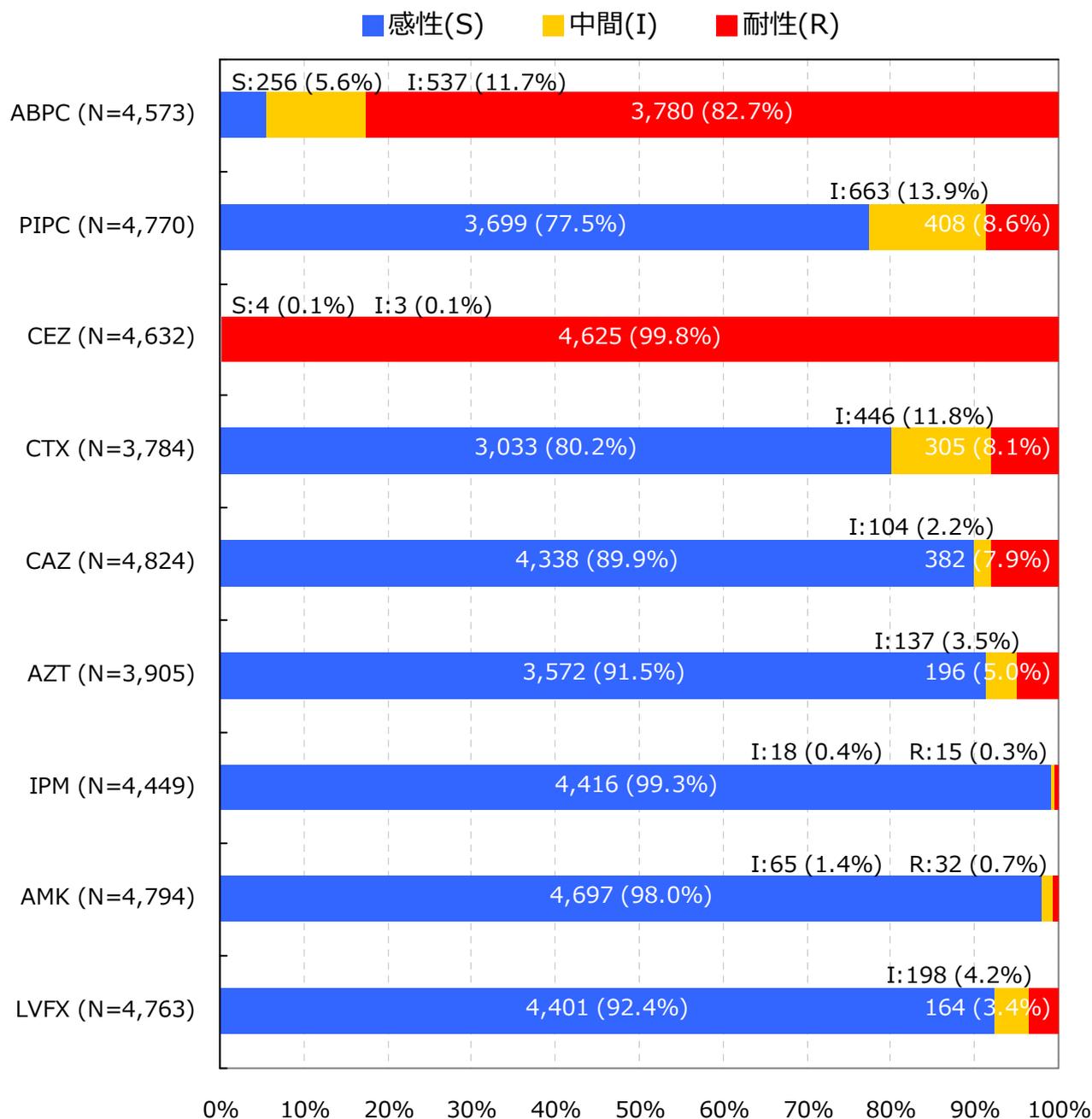
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：2351と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



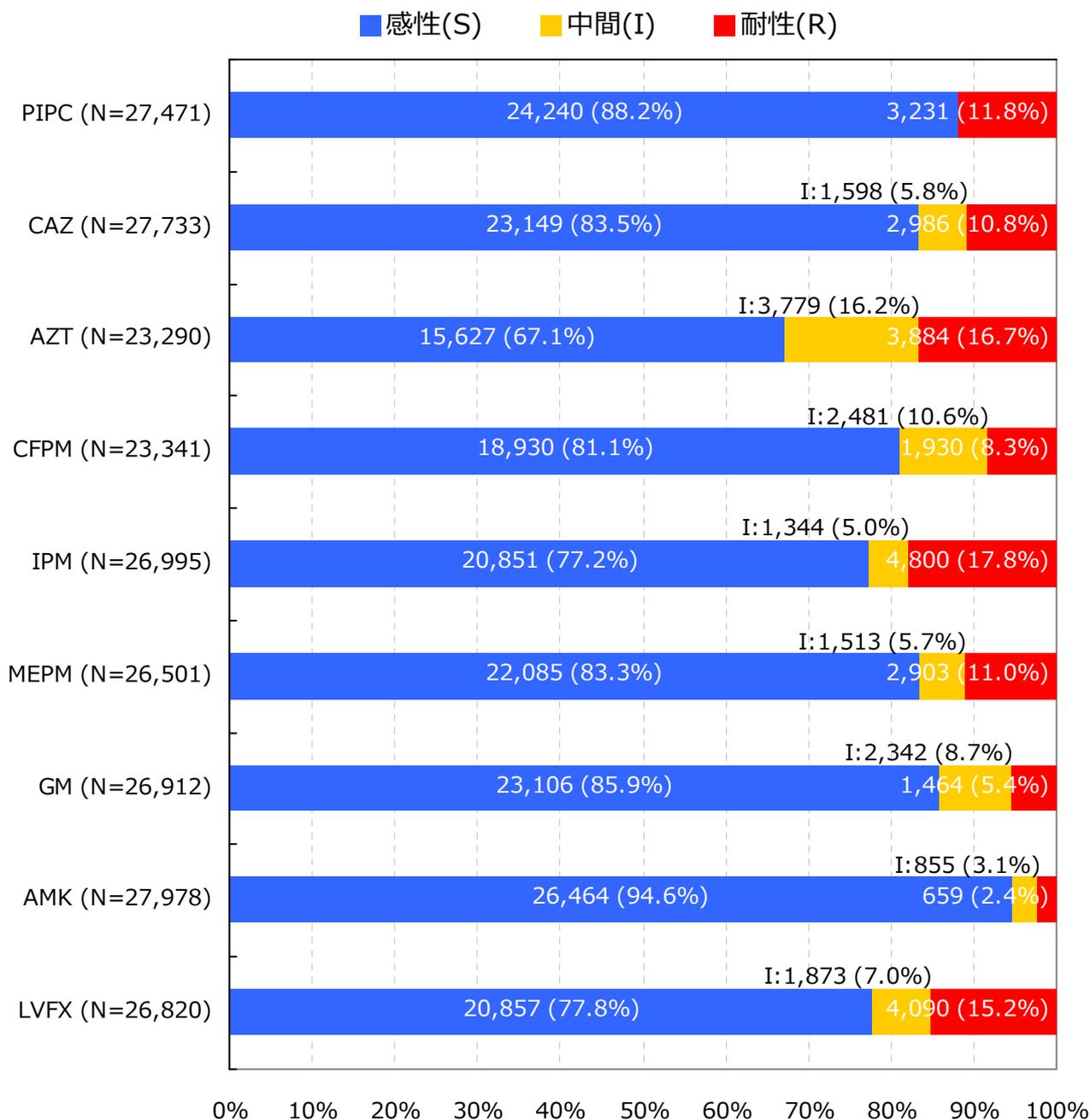
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：2101と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

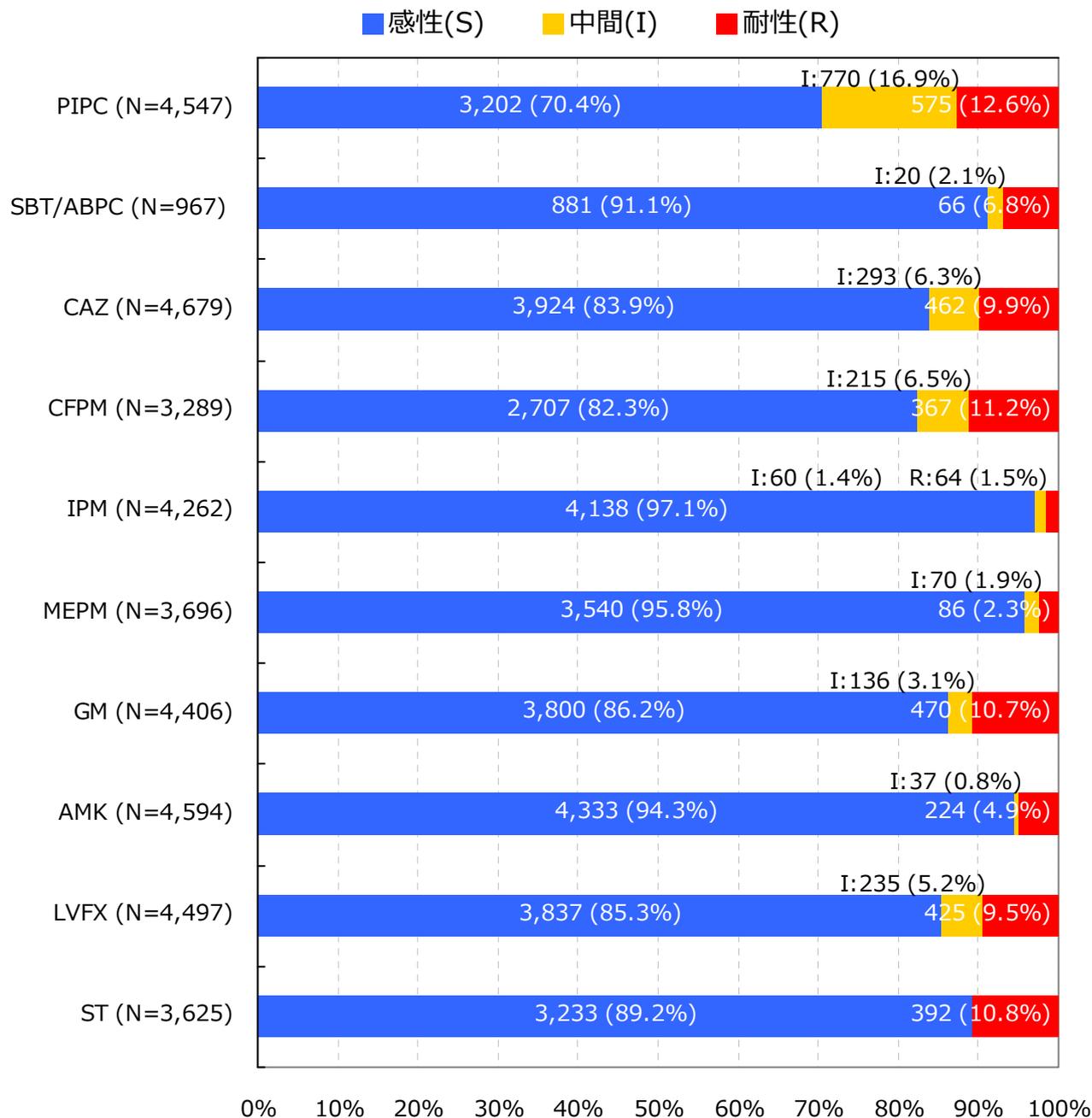
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：4001と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

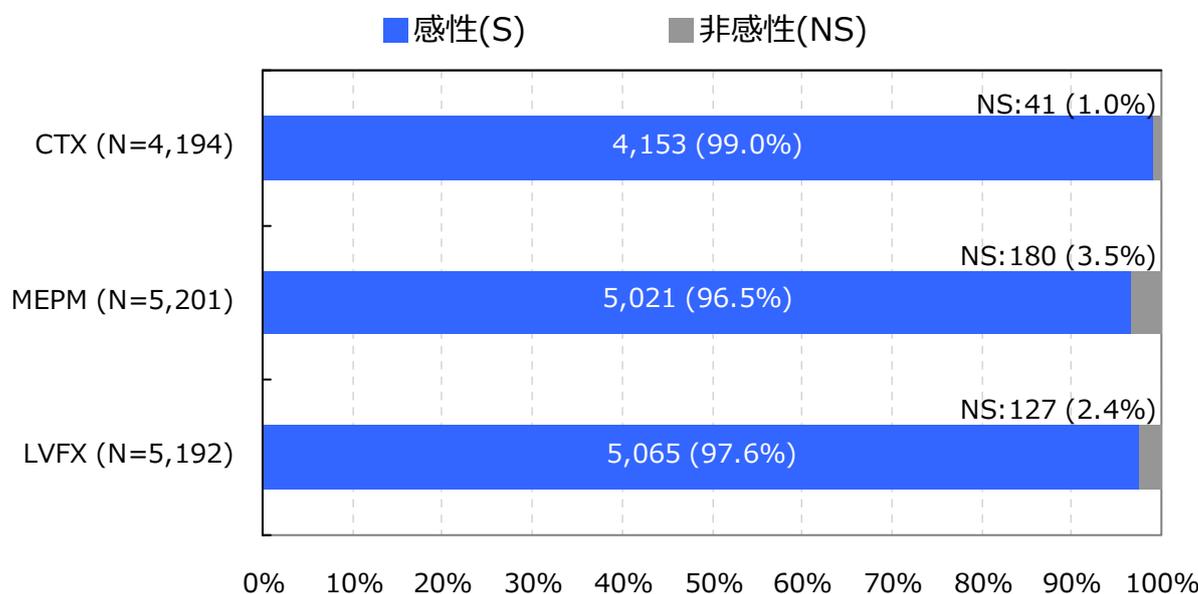
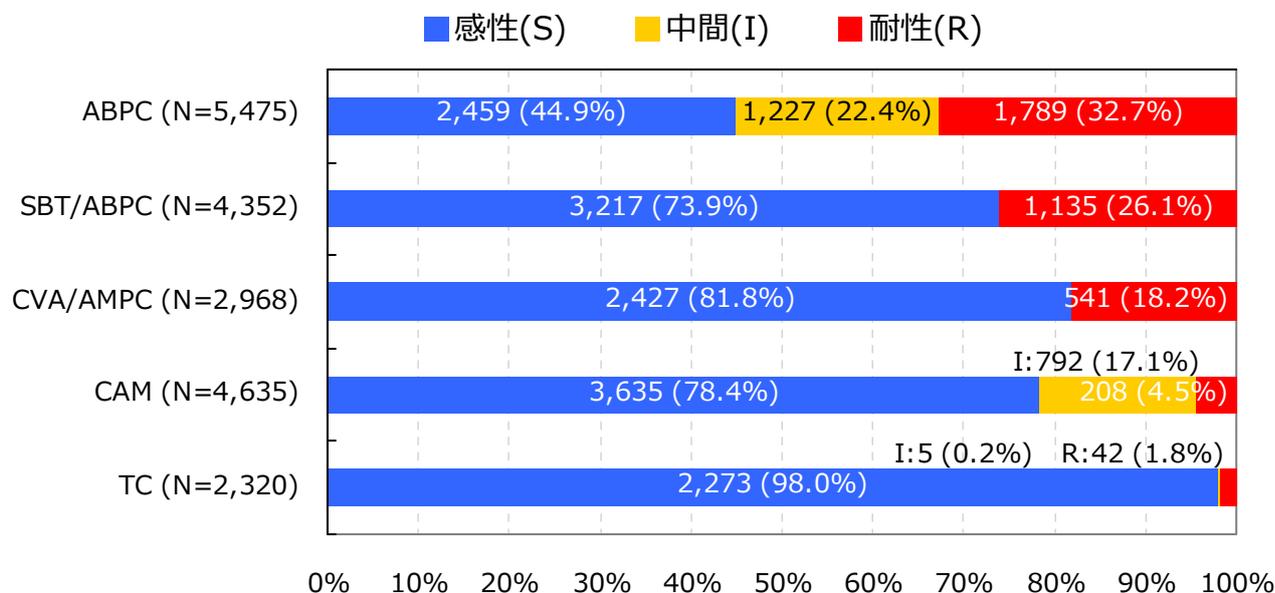
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

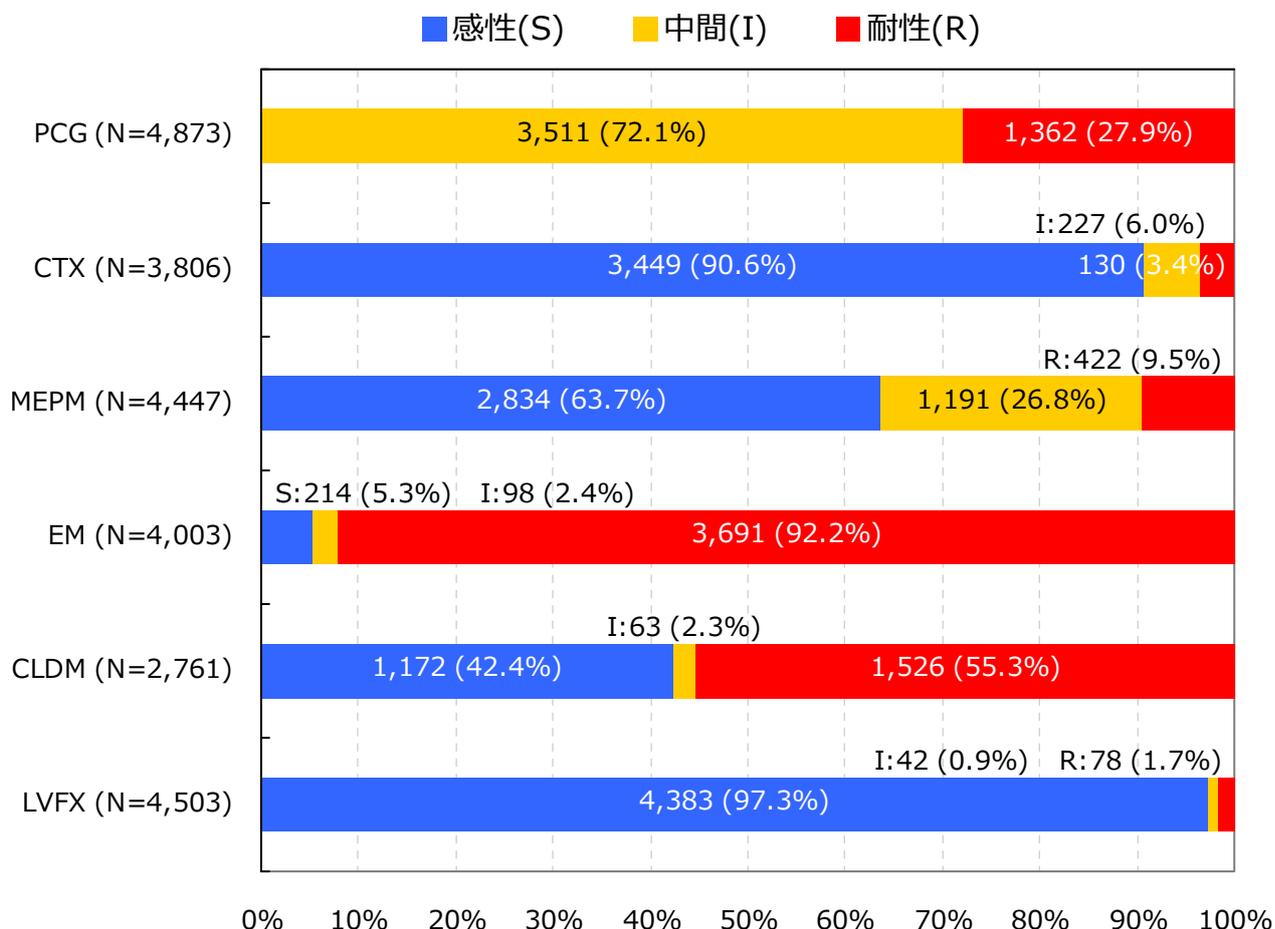
*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌



5. 主要菌の抗菌薬感受性*

Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)外来患者対象†



外来検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

†菌名コード: 1131と報告され抗菌薬コード: 1201 (ベンジルペニシリン) の感受性結果「I」「I or R」「R」の菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名*	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> 又は選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301 1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>S. aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性+ ・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ +	1201,1202,1205, 1206,1209,1210、 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性+の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ +	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM、MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体 希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (NFLX、OFLX、 LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ + 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA†	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM、MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体 希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (LVFX、CPFX、GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ + 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が “R” の <i>P. aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	4001
カルバペネム 耐性セラチア	IPM または MEPM が “R” の <i>Serratia marcescens</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2101
第三世代セファ ロスポリン耐性 肺炎桿菌	CTX が “I” か “R” 又は CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 32\mu\text{g/ml}$	2351

菌名*	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファ ロスポリン耐性 大腸菌	CTX が “I” か “R”、又は CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 32\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロ ン耐性大腸菌	フルオロキノロン (NFLX、OFLX、LVFX、 LFLX、GFLX、CPFX) の何れかが “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

*原則 S,I,R の判定は CLSI2007 (M100-S17) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

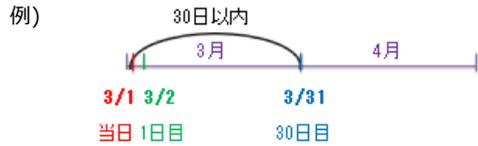
††MDRA の集計は以下のように変更された。

薬剤判定基準 (①～③の全てに条件を満たす)	適応時期
① IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 又は MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ ② AMK $\geq 64\mu\text{g/ml}$ ③ LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 又は CPFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	四半期報 2007年7-9月～2010年10-12月 年報 2007年～2009年
① IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 又は MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ ② AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ ③ LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 又は CPFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 又は GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	四半期報 2011年1-3月～現在 年報 2010年～現在

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

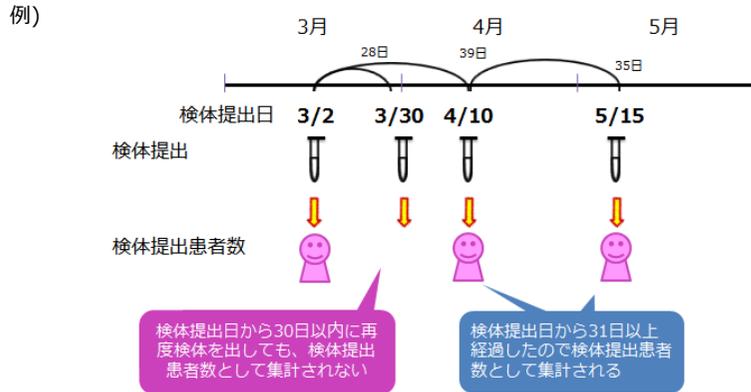
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



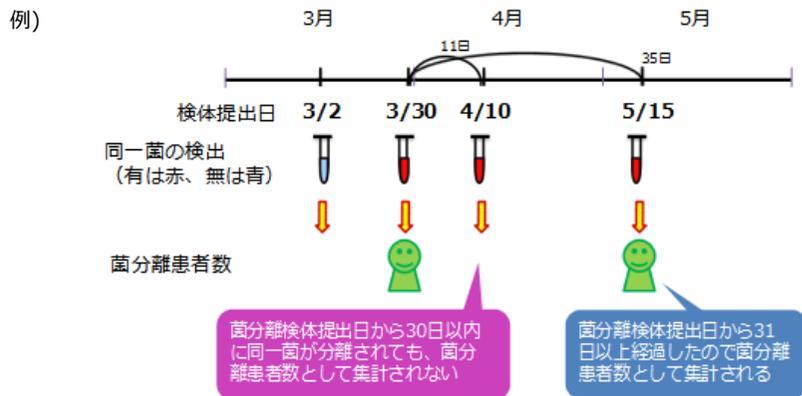
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



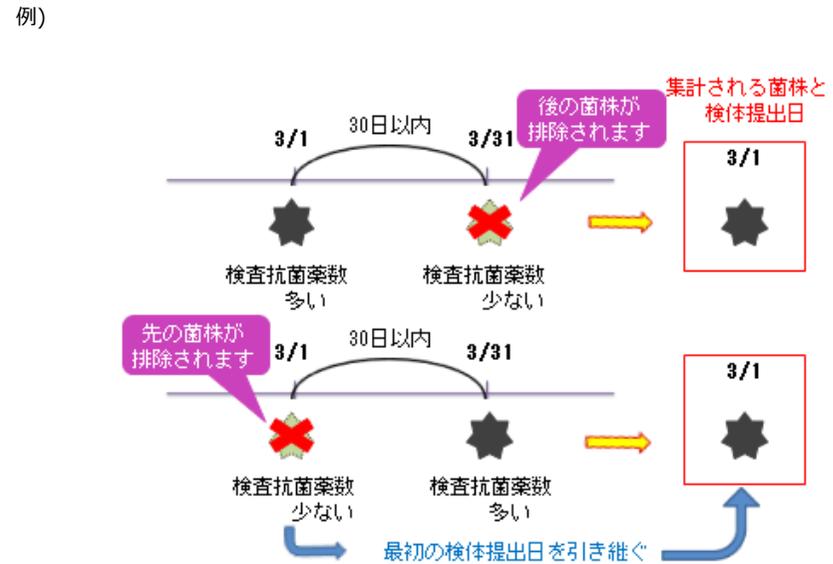
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、 $MIC > 2$ は $MIC \geq 4$ と考え、判定時は $MIC = 4$ として扱う
また、 $MIC < 16$ は $MIC \leq 16$ と考え、判定時は $MIC = 16$ として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

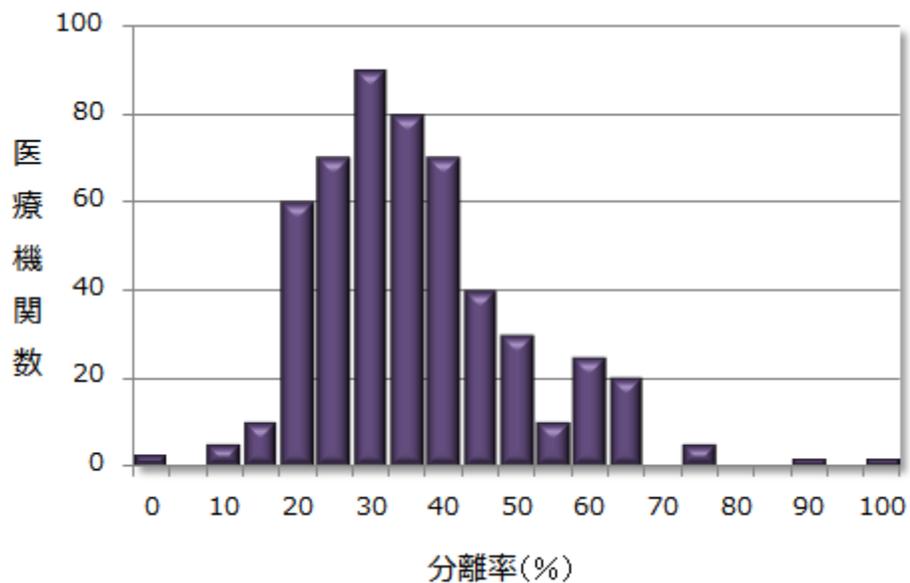
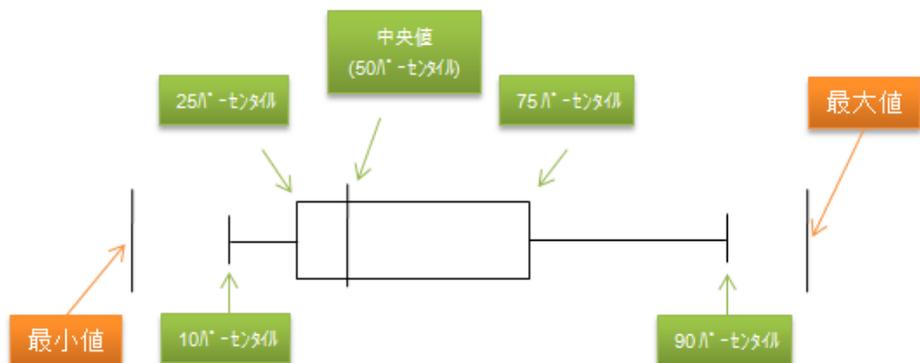
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図

